

◇健康診断のお知らせ◇

当院では、健康診断を実施しております。予約制となりますので、ご希望の方は受付へお申込みください。検査項目等詳細は、別紙“健康診断のご案内”をご覧ください。

※H28年3月1日より料金が
変わりました

皆様いかがお過ごしですか？

興村脳神経外科クリニック通信第44号をお届けします。バックナンバーは当院のホームページからも閲覧できますのでご利用ください。

<http://www.okimura-nouge.com/>

大学生になった娘が「バイト先で交際を申し込まれ断った」とか「他大学に彼氏をつくったようだ」などが我が家の女性陣の間では話題になっているようです。が、私は完全に蚊帳の外です。詳細な情報は娘からは得られませんし、妻もこの件に関しては娘サイドに立ち位置を置いているようです。私はホームにいながらにして完全アウエー状態です（サッカー観戦時のアウエーサポーターの気持ちでしょうか）。「曖昧」な情報は人に「不満」と「不安」を募らせる最大の原因です。「明確」に「分かる」ことのない「曖昧」な情報なら「分からない」方が良かったと感じる今日この頃です。

さて今月の話題は『症状と病名2』です。

前回、第43号にて頭痛は『病名』ではなくて『症状』（患者さんの訴え）です、ということを書きました。ところが頭痛に何らかの（接頭語）がついた場合は『病名』となることがあります。この『曖昧』さが患者さんにとっては『不満』と『不安』の原因となるのかもしれませんが。頭痛の患者さんを診察する時、先ず二次性頭痛かどうかを判断することを大切にしています。二次性頭痛とは頭痛そのものが病気の本体ではなく、明らかな別の『病名』がつけられる頭痛ということで、具体的にはくも膜下出血や脳腫瘍などです。この診断には画像検査（MRI など）が有用です。二次性頭痛は稀ですが、重大な病気が多いので要注意です。一方で、一次性頭痛とは頭痛そのものが病気の本体と考えられているものです。ですから、『症状』である頭痛に何らかの（接頭語）を付け加えて『病名』にするわけです。（片）頭痛、（緊張型）頭痛などが代表例です。しかしながら一次性頭痛は検査で見えないことが多い頭痛ですので、その診断に苦慮することもままあります。そんな時にはどこまでが『分かり』、どこからが『分からない』のかを『曖昧』にせず出来るだけ丁寧に説明するように心がけています。専門である頭痛の診断一つとってもまだまだ未熟な私ですが、出来る限り『曖昧』を『明確』にするように努力し、患者さんの『不満』と『不安』を軽くしてあげられる、そんなクリニックをスタッフとともに目指していきたいと思っています。

◇当院からのお願い◇

- ◆月初めには、保険証の提示をお願いいたします。70歳以上の高齢受給者証をお持ちの方は、保険証と一緒にご提示ください。
- ◆お電話にてご予約される際は、まず診察券番号とお名前をお伝えくださいますようお願いいたします。
- ◆お引越し等で住所・電話番号が変更になった際は、お知らせください。

今後とも、クリニックならびにクリニック通信にご指導いただければ幸いです。

興村脳神経外科クリニック